

第12回 助成活動団体成果報告会 報告書 & 助成制度のご案内

開催日時：令和3年11月2日(火) 午後1時30分～4時

開催場所：シアター1010 ギャラリーB



あなたの
まちづくり
を

応援
します!

第12回 助成活動団体成果報告会報告書

令和3年11月2日(火)、「第12回公益信託あだちまちづくりリラスト助成活動団体成果報告会」を開催しました。
今回は、令和2年度にまちづくり活動を行った団体のうち、7団体による成果報告を行いました。

目次

昔遊び ベーゴマ教室 ▶ 特定非営利活動法人 ベーゴマ普及協会	P3
千住地域での自主映画制作および上映事業 ▶ 知らない路地の映画祭制作委員会	P4
氷河期世代・引きこもり者の社会参画 及び中小事業者の元気応援事業 ▶ 特定非営利活動法人 なりわいプロジェクト	P5
モア・アダチ2020 ▶ ADACHI WOMEN&ALLIES	P6
子育てしやすい区No.1のまちあだち化プロジェクト ▶ NPO法人 子育てパレット	P7
避難所運営ゲーム及びAR災害疑似体験 ▶ NPO法人 地域の芽生え21	P8
第18地区(中川地区)における 町会・自治会タイムラインの作成 ▶ 第18地区水害対策委員会	P9
令和2年度助成活動団体一覧	P10
公益信託あだちまちづくりリラスト 助成制度のご案内	P11

はじめに



吉満 明子 委員長
(株)センジュ出版 代表取締役

運営委員の皆様には、各団体の活動が申請時の内容と一致しているかどうかご確認いただくのはもちろんですが、同時に、運営委員会としての判断が適切であったかという客観的な視点もお持ちいただければと思います。

助成を決定した団体の活動がまちづくりにどのように寄与しているのか、地域の中でどのような成果をもたらしたのかご確認いただき、忌憚のないご意見、評価をお願いいたします。

また、各団体の方は、成果報告会で出た意見を今後の活動にフィードバックしていただければ幸いです。



昔遊び ベーゴマ教室



発表者
有澤 次男さん(左)
植松 健さん(右)



身近な
活動コース
【申請額・助成額】
29万円

■ 助成金の主な使いみち

- ・貸出用ベーゴマ購入費用
- ・イベント周知用ポスターやチラシ印刷代

【活動内容】

「ベーゴマを通じて世代をつなぎ、地域をつなぎ、伝統文化をつなぐ」を理念に、小学校、学童、児童館、商店街、高齢者施設、各種イベントなどでベーゴマ教室を開催。子どもたちや高齢者の居場所づくり、地域交流の活性化を目的として活動しています。

◎ 活動の成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和元年、令和2年と町内のイベントはすべて中止となりましたが、児童館・学童等では、感染対策に万全を期して、ベーゴマ教室を開催することができました。1年間で80回実施し、延べ2100人の方の参加がありました。助成金の活用により、昔遊びベーゴマ普及活動の幅が広がると同時に、学校からのベーゴマ教室開催の依頼も増え、地域の活性化・まちづくりに貢献できたと思います。

➔ 次回活動に向けて

コロナの影響で各地でのイベント開催が極端に減少したので、町会や企業と協力し、ベーゴマ教室・イベントの実施を増やしていきたいと思います。また、視覚や聴覚に障がいのある方も楽しめるベーゴマの開発に着手。さまざまな人が、ベーゴマや昔遊びに関わることで地域の交流が活性化し、豊かなまちづくりに寄与していけたらと思います。



▲発表当日の有澤さん



▲発表の様子



▲西新井さかえ公園で行われたベーゴマ大会



▲小さなお子さまにもやさしく指導します



▲区役所ロータリー芝生前で行われたあだちNPOフェスティバル



▲視覚に障がいがある方でも遊べる光るベーゴマ(写真中央)スイッチを入れて回すと中央部分が赤や青に光ります

講 評

■ 昔遊びで、高齢者と子どもたちの居場所づくりを

コロナ禍というさまざまな制限があり非常に難しい状況のなか、いろいろと工夫をされて活動いただいたこと、本当に感心いたします。ベーゴマ普及協会のホームページの写真も拝見しました。ベーゴマ教室、イベントに参加されている皆さんが本当に笑顔で、楽しそうな様子がうかがえました。高齢者と子どもたちの居場所づくり、世代、地域をつないでいくことを活動の目的とされていますが、今後ますます重要になってくる分野だと思います。その意味では、非常に大きな成果があった活動だと感じました。



にたない 和 運営委員
足立区議会議員

千住地域での自主映画制作 および上映事業

発表者
工藤 理佳子さん(左)
工藤 康浩さん(右)



はばたき
支援コース
【申請額・助成額】
128万円

■ 助成金の主な使いみち

- ・ 撮影機材レンタル料や施設利用料
- ・ 勉強会講師謝礼

【活動内容】

自主映画制作を通じた「人々との縁づくり」「千住地域の魅力の情報発信」を目的に活動しています。今年、「文化サロン仲町の家（NP〇法人音まち企画）」で行われた手作り映画祭で新作を上映したり、他団体とのコラボ上映会を開催したりしました。また、外部講師を招いた勉強会を開き、映画制作の知識を深めることができました。

◎ 活動の成果

コロナ禍でも活動を継続するため、令和2年10月、北千住駅西口大型ビジョンにて「知ら路地ビジョンβ」の実験放送を行い、令和3年4月からは「知ら路地ナイトシアター」の本放送を開始しました。感染防止対策を施した劇場では、「まちかど映画館 朝シネマブルースタジオ」の上映を行い、延べ50名の方が鑑賞しました。また、「にいがたインディームービーフェスティバルextra edition2020」に選出され、上映されたことは千住の魅力発信にもつながりました。

➔ 次回活動に向けて

令和4年4月「知らない路地の映画祭」を開催予定。「人と人との縁づくり」「千住地域やあだちの魅力の情報発信」は、現在制作中の新作映画に集約。今後もさまざまな企画を行い、映画を通して新しいコミュニティの可能性を提案していきます。制作活動誌「本」形式のアーカイブ化も検討しています。



▲発表当日の工藤さん



▲発表の様子



▲撮影風景



▲北千住駅西口大型ビジョン上映風景



▲コロナ対策の劇場にて初のまちかど映画館開催



▲未来につながる実験室にて上映

講評

■ 作品という成果がもたらす地域への波及効果

文化性をアピールしていくことは非常に大変なことで、効果が見えにくい面もあるのですが、足立区においては重要なことだと感じています。そこで、いくつかお願いがあります。ひとつは、これまで3年間トラス助成を受けられていますが、そろそろ集大成的なものを見せていただければありがたいと思います。また、成果として作品のように形に残るものがありますが、その成果が、どう地域に効果をもたらしているのか、地域の波及効果みたいなのを視野に入れていただくといいのかなと思います。最後に、今後の展開として、資金的な面も含め継続性を意識して活動いただければと思います。



松沼 勝 運営委員
まちづくりカウンセラー

氷河期世代・引きこもり者の社会参画 及び中小事業者の元気応援事業

発表者
古怒田 悦子さん (左)
藤本 祥和さん (中央)
大竹 恵美さん (右)



【活動内容】

足立区に潜在する8050問題の解決に向け、「氷河期世代の就労」「引きこもり者の社会参画」「中小事業者の人材不足解消」を目指して活動しています。具体的には、対話力の向上や、企業や非営利組織の活性化を目指したオンラインワークショップを実施したり、農作業や塩麴づくりによる共同作業を通じた交流会を開催したりしました。

はばたき
支援コース
【申請額・助成額】
41万円

■ 助成金の主な使いみち

- ・ワークショップ講師謝礼
- ・ワークショップ案内チラシ作成委託および印刷費用

◎ 活動の成果

ワークショップを14回開催し、生きづらさなどの困難な課題を抱える人たちを支える活動や仕事に関わる方など延べ約80名の方が参加しました。その中で課題共有、情報交換、身体を使った共同作業を通しコミュニケーション力の向上が図られ、参加者同士の新たなつながりも生まれました。

➔ 次回活動に向けて

今年度実施したワークショップでは、参加者の熱意が伝わりニーズの高さを実感しました。今後は、リアルな場でのワークショップ開催、職場体験の実施を目指すとともに、今年度の成果を「生きにくさ」「働にくさ」を感じる方たちの社会参画へのファーストステップづくりに発展させる仕掛けの創出に取り組んでいきたいと思えます。



▲発表当日の藤本さんと古怒田さん



▲発表の様子



▲農作業を通じた参加者同士の交流



▲塩麴づくり



▲一緒に作って一緒に食べる交流会



▲人と組織の意識がかわるワークショップ
「自己効力感と対話力が向上するコミュニケーション」

■ 活動の対象者を明確にし、継続性を視野にいれた活動を

私をもっとも興味を抱いたのは、引きこもりの方をどのように社会参加させるのか、あるいは、人手不足の中小企業とどうマッチングさせるのかという点でした。この点は、まだ解決には至らないようですが、重要な問題でもあり引き続き対応していただければと思います。活動としては幅広いテーマを扱われていますが、対象者や目的など、資料からは読み取れない面が多々ありました。その辺りを適切に資料にまとめていただけると、今後の我々の糧にもなるのかなと感じました。



松沼 勝 運営委員
まちづくりカウンセラー

モア・アダチ 2020

発表者
片野 和恵さんはばたき
支援コース【申請額】89万円
【助成額】58万円コロナの影響により
活動内容を変更しました

■ 助成金の主な使いみち

- ・ポータルサイト制作委託料
- ・チラシ印刷経費

【活動内容】

足立区を自分達の力で良くしようと活動中の団体を金銭的に支援する仕組みとして区民参加型ポータルサイト「モア・アダチ」を開設し協賛企業を募るとともに、若い世代を地域活動に呼び込むフェスタを企画。コロナ禍により、サイトは計画より遅れて令和3年1月にプレオープン、4月にグランドオープンを迎えましたが、フェスタは開催を中止しました。

◎ 活動の成果

マッチング企業からの協力（メールマガジンへの掲載と企業紹介）により、14社から会員申込がありました。また、フェスタの準備で町会とつながったことで協賛企業の製品を朝市で売るモア・アダチマルシェが生まれた他、区内のものづくりの会社がモア・アダチを介してつながったり、NPO団体との連携が生まれるなど、活動の幅が広がりました。

➔ 次回活動に向けて

コロナ禍により中止した地域と人をつなぐモア・アダチフェスタの実施を含め、トラストの助成が終了した後の活動はもちろん、公益活動への支援が続けられるように、新たな事業（動画サイトモア・アダチちゃんねる、紙媒体モア・アダチタイムス）を展開し、モア・アダチにかかわる人や企業を増やしていくことで自立を目指します。



▲発表当日の片野さん



▲発表の様子



▲ポータルサイトモア・アダチ画面①



▲ポータルサイトモア・アダチ画面②

▲第1回モア・アダチ マルシェ
(関原不動商店街朝市)

▲第2回モア・アダチ マルシェでは、コロナ禍により業績が低迷している協賛会員の商品を紹介しました

講 評

■ 企業と人のさらなるつながりに期待

関原不動商店街の朝市にて活動を拝見し、参加者が増えているのを実感し嬉しく思いました。活動においては、トラスト助成終了後を見据えて収益の目標をきちんと立て、その目標を達成されている点、大変素晴らしいと感じました。協賛する企業が増え、それぞれの企業を介して、人や企業とのつながりがさらに広がっていく活動に今後の期待がふくらみます。周知に関しても、さまざまな取り組みをされていますが、やはり皆さまに知っていただくことは大変重要ですので、今後もさらなる工夫を重ねていっていただければと思います。令和4年には、モア・アダチ・フェスタ開催の話もございましたので、こちらも楽しみにしております。

さの 智恵子 運営委員
足立区議会議員

子育てしやすい区No.1のまち あだち化プロジェクト

発表者
三浦 りささん(左)
佐藤 佳代さん(右)



はばたき
支援コース
【申請額・助成額】
184万円

■ 助成金の主な使いみち

- ・WEBサイト構築費用
- ・チラシ、ステッカー配布スタッフ
日当

【活動内容】

地域で子育てをサポートする仕組みを確立することを目的に、子育てしやすいまちの実現に必要な、ママの孤立を防ぐことをシンボルマーク「ドットリボン」で表し、ステッカー&カードを制作。当事者が必要な情報・支援・共有相手に簡単にたどりつける専用ウェブサイトと共に普及を促します。地域の有志の方や団体と協働することで、子育てを通して地域が助け合う相互扶助を構築します。

◎ 活動の成果

たくさんの方の有志の方のご協力により、足立区内施設、店舗、公共機関、会社、個人宅、団体の拠点等約500箇所にドットリボンステッカーを設置。“ママの孤立防止”の認知が進んでいます。ママだって「弱音を吐いていい」「つらいうちでいい」というマインドが浸透し、広がる様を実感。日々、賛同者が増え、協力体制も徐々に整備されつつあります。

➔ 次回活動に向けて

緊急事態宣言発出により、イベントが実施できず、思うように人を集めることができなかったため、認知促進の動きが当初予定していたより鈍く感じています。次年度は、その分を補う形でステッカー&カードの継続設置と新規の設置、サイトへのアクセス増加に努めると共に、設置エリアの偏りをなくすことも課題としています。



▲発表当日の三浦さん



▲子育てパレットHP画面



▲区内フォトスタジオの受付にステッカー設置



▲区内遊具施設の入り口ドアにステッカー貼付



▲区内スーパーのサッカー台付近にステッカー貼付



▲ドットリボンを普及するための地域アンバサダー説明会開催

■ 実績のなかで蓄積されたノウハウのシェア、共有を

行政が抱えている課題と地域性との関連、さらにその中で、リアルとデジタルを上手に組み合わせながら活動の領域を拓げられている点において、子育てパレットさんには、今後ますます期待していきなうと思いました。同時に、次の展開として、ぜひ他団体や他の活動をされている方とつながることを含め、これまでの実績の中で蓄えられたノウハウや有益な情報などをシェア、共有する機会の構築を視野に置いて活動していただけると、まちづくりという意味合いにおいて、さらに活性化していくのではないかと感じております。



吉満 明子 運営委員長
(株) センジュ出版 代表取締役

避難所運営ゲーム及び AR災害疑似体験



発表者
桑原 里保さん

はばたき
支援コース
【申請額】145万円
【助成額】82万円

コロナの影響により
活動内容を変更しました

■ 助成金の主な使いみち

- ・ ARアプリ利用料
- ・ 講師謝礼

【活動内容】

ARを活用した災害疑似体験により、災害について学ぶ機会を提供しました。災害について学んでいただくことで、減災に役立てるとともに、災害が発生した時の一人ひとりの自助力を高める目的があります。また、避難所運営ゲームでは、避難所で起こる様々な出来事の疑似体験を通して、実際に災害が起きた時の避難所での行動を学んでいただきました。

◎ 活動の成果

AR教室での災害体験は、防災訓練というより災害の勉強会のような位置づけであるため、参加者を飽きさせない工夫が必要です。梅島小学校で行った体験会では約80名の児童に参加してもらい、宮城県石巻市大川小学校・千葉元校長先生の体験談を視聴後、AR災害疑似体験をしてもらうことで臨場感のある会を開催することができました。

➔ 次回活動に向けて

足立区では、令和元年10月に避難所が開設され、災害対策に関して多くの反省点があぶりだされました。しかし、その後、新型コロナウイルス感染症拡大により大きく状況が変化し、災害対策への意識が薄れているのかもしれない。今後も災害対策に貢献すべく、繰り返しの訓練により地域の課題を探すお手伝いをしていきます。



▲発表当日の桑原さん



▲発表の様子



▲梅島小学校 体験授業



▲ARカメラを使用し、見慣れた地域が浸水した様子を疑似体験しています



▲ARによる浸水状況

講 評

■ 災害について学ぶ意義のある事業、さらなる周知を

足立区のように地域として災害に高い意識を持たなければならない地域において、有益な事業だと思います。ARを活用した災害の疑似体験、ゲーム感覚で避難所での行動が学べるツールなど、災害に対して関心を持ち、学びは始めるためのひとつのきっかけになると感じました。広く区民の皆さまに対して情報の共有、周知を進めていただくことで、今後のさらなる発展につながっていくと考えておりますので、その点を期待しております。



松井 加奈絵 運営委員
東京電機大学准教授



第18地区 (中川地区) における 町会・自治会タイムラインの作成



発表者
作間 敦さん

はばたき
支援コース
【申請額】170万円
【助成額】22万円
コロナの影響により
活動内容を変更しました

■ 助成金の主な使いみち
・タイムライン作成支援費用

【活動内容】

水害時に町会・自治会が適切に防災対応を行うために、コミュニティタイムライン（以下、CTL）という防災計画の作成を行っています。台風接近時には、中川を対象としたCTLを用いて対応し、その後、改善のための会議を開催しました。また、さらに甚大な被害をもたらす荒川を対象としたCTLを作成しました。

◎ 活動の成果
CTLを作成したことで、令和元年台風第19号接近時に適切に対応することができ、多くの住民の避難につながりました。一方、課題も見つかりタイムラインの改善もできました。この取り組みが評価され、東京消防庁の「第16回地域の防火防災功労賞」での消防総監賞、「令和2年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受けました。

➔ 次回活動に向けて
中川地区の水害対応力をさらに強化するため、コロナ禍での分散避難など最新の知見を取り入れ、中川・荒川の氾濫に備えたCTLの改善を行っていきます。今後は、CTLの考え方を活用して、町会・自治会だけでなく住民一人ひとりが避難について考え、自助の力を身につけられる活動を行っていきたいと考えています。



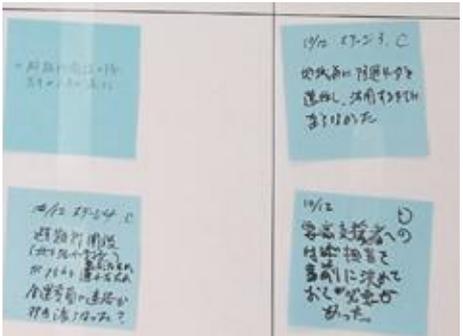
▲発表当日の作間さん



▲発表の様子



▲振り返りの様子



▲振り返りの結果



▲荒川版タイムラインの検討



▲町会ごとにタイムラインを作成しました

■ 足立区全域に広げていきたい水害対策の取り組み

コミュニティタイムライン（以下、CTL）の作成は、足立区全域に広げていきたい取り組みです。第18地区では、区が始める前から、取り組みをスタートしていらして賞も受賞されています。CTLを作るうえでは、ひとりで逃げられない要支援者の方にどう対応するのかということが大きな課題です。東京都のような規模の大きな団体では難しいのが実際です。区としてもこちらの取り組みから学ばせていただいている段階であり、他の地区にも広げていきたいと考えていますので、いろいろとご指導・ご協力いただければと思います。



犬童 尚 運営委員
足立区都市建設部長

令和2年度助成活動団体一覧

●身近なまちづくり活動コース

No.	団体または個人名	事業内容	助成金額
1	特定非営利活動法人 Support for Woman's Happiness	空き家でワークショップ等を開き、ラオスの特徴あるモノづくりに触れ体験する場を提供。多文化共生と地域の場を活かす取組から新たな人の繋がりを目指す。	25万円
②	特定非営利活動法人 ベーゴマ普及協会	高齢者及び親子の昔遊びベーゴマ教室開催／学校放課後遊び、学童・児童館や障害施設でのベーゴマ教室開催／地域商店街のお祭りや企業主催イベントへの参加	29万円
3	あろは	園児に対する和太鼓講習会の実施。和太鼓を通じ、コミュニティのつながりを深める。又、和太鼓の後継者育成により、盆踊りや祭りといった地域文化承継にも寄与する。	29万円

●まちづくりはばたき支援コース

No.	団体または個人名	事業内容	助成金額
4	NPO法人 千住文化普及会	千住の街歩きや学校への出前講義など千住の歴史文化の普及に努めてきた。平成29年作成のガイドブック(第1冊目)に続いて2冊目を令和3年3月に発行した。	200万円
⑤	NPO法人 地域の芽生え21	避難所運営ゲーム+AR災害体験+防災ハンドブックをセットにして、区民に災害啓発を行う。	82万円
⑥	ADACHI WOMEN&ALLIES	足立区を持続可能な活力と魅力ある「まちやひとの森」にするため、参加型ポータルサイトの制作、地域活性化イベントの開催を行った。	58万円
⑦	第18地区水害対策委員会	中川地区を対象として河川の決壊・氾濫に備えたコミュニティタイムライン(CTL)の策定、および大規模水害CTL検討会の実施。住民へのタイムラインの配布。	22万円
⑧	特定非営利活動法人 なりわいプロジェクト	「8050問題」の解決の一助となるべく、講座やイベントを開催し、就職氷河期世代の就労、引きこもり者の社会参画及び中小事業者の人材不足解決を目指す。	41万円
⑨	NPO法人 子育てパレット	子育てをサポートする仕組みを確立するため、子育て支援活動のシンボルマークを協力店・企業に設置してもらうと共に、足立区子育てウェブを構築する。	184万円
⑩	知らない路地の映画祭制作委員会	自治会・町内会等地域住民の方々を巻き込んで、映画製作を実施することにより、人々の縁づくりやまちの活性化、千住の魅力を再発見につなげる。	128万円

●まちづくりイベント整備活動コース

No.	団体または個人名	事業内容	助成金額
11	千葉佐那さんを顕彰し 千住仲町の歴史を守る会	千住に住む区民に誇りと歴史を語り継ぐ使命感を共有し、地域活性化とコミュニケーション形成に寄与することを目的とする佐那と龍馬のレリーフを建立した。	260万円
12	足立の学童疎開を語る会	戦争による学童疎開での苦難の体験を、風化させず次世代に継承するために、平和の願いを込めて「学童疎開平和記念碑」を建立した。	130万円

●街並み空間自主管理歩道等助成コース

No.	団体または個人名	事業内容	助成金額
13	イニシア千住曙町管理組合法人	イニシア千住曙町の公開空地(自主管理歩道)東側20か所の植樹帯改修工事を行った。	300万円

※No.に○がついている団体は成果報告会出席者

■助成コース

助成コース名	助成対象者	助成限度額	助成回数
学生コース	個人又は団体(中・高・大・大学院生に限る)	10万円以内	3回まで
身近な活動コース	個人又は団体	30万円以内	5回まで
はばたき支援コース		総額500万円以内(各回200万円以内)	5回まで
イベント・整備活動コース		300万円以内	1回限り
街並み空間・自主管理歩道コース	個人又はマンション管理組合等	300万円以内	制限なし

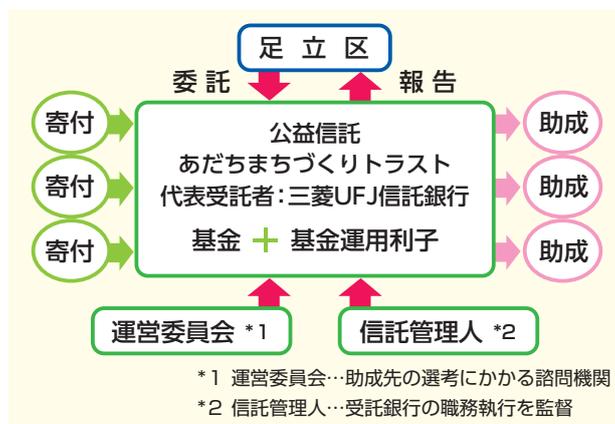
公益信託あだちまちづくりトラス 助成制度のご案内

区民のみなさまの創意工夫あふれる自主的なまちづくり活動を応援します。

■まちづくりトラスのしくみ

当基金は、助成事業を通じて快適で文化的なふれあいのあるまちの創造に寄与することを目的としています。

この趣旨にご賛同くださる方からの寄付金を、公益信託法に基づき足立区が信託銀行に委託し、運用益等でまちづくり活動を行う個人又は団体に助成しています。



運営委員からのメッセージ



清水 麻帆 運営委員
文教大学准教授

地域に根付いた互助活動に期待

コロナ禍が続き、地域のレジリエンス（回復力・乗り越える力）が問われています。そうした中、足立区では、区民の方々による草の根の互助活動が迅速かつ自主的に行われてきました。この背景には、平常時から地域に根付いた活動が行われてきたことが挙げられます。「あだちまちづくりトラス」は、こうした様々な地域課題に取り組む活動を支援してまいりました。今後も、区民の皆様による、より良い社会の創造に繋がる活動を期待しております。



浅香 孝子 運営委員
まちづくり推進委員

まちづくりは人への愛情と思いやりから

人と人との絆を深め、思いやりのあるまち。そこから郷土愛が生まれます。第18地区水害対策委員会を例にすると、「むこう三軒両隣」や「遠くの親戚より近くの他人」ということばが示すように、地域で助け合い、自分たちのちからで地域を守ることの大切さを認識し、災害に強いまちづくりを実践していらっしゃいます。申請者の皆様には、是非地域で活動の成果を出し、先導の役割を果たしていただきたいと思います。

閉会挨拶



小川 清美 信託管理人
税理士

コロナ禍のなかでの非常に難しい開催でしたが、対面での報告会ができたことは、よかったと思います。参加された団体の皆さま、会の運営にご協力いただいた皆さまに感謝を申し上げます。一点、ご報告がございます。以前、トラス助成を利用された「西新井大師周辺地区まちづくり協議会」が運営する「行燈まつり」が今年も盛大に開催されました。トラス助成後、自立し、毎年開催されていることを嬉しく思い、この場でご報告させていただくこととしました。最後になりますが、助成金の原資は限られた信託財産でございますので、有効に活用していただけますようお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

／ トラストの申請方法 ／



活動成果の発表やPRを行う場合は、トラスト助成を受けた旨を表示して下さい。

トラストを受ける条件

- ① 営利を目的としない活動であること
- ② 団体の運営や代表者の選任方法が、会則、規則等で決まっていること
- ③ 同一内容の企画で区又は区の関係団体から助成を受けていないこと
- ④ 宗教・政治活動を目的としない活動であること
- ⑤ 社会の秩序や安全に脅威を与え、社会の発展を妨げる団体及びその構成員、個人でないこと

お問い合わせ

申請相談

足立区都市建設部 まちづくり課管理調整係
TEL 03(3880)5915(直) FAX 03(3880)5605 〒120-8510 足立区中央本町1-17-1
メール：machi_shien@city.adachi.tokyo.jp

代表受託者(申請書類提出先)

三菱UFJ信託銀行 フリーダイヤル
リテール受託業務部公益信託課 0120(622)372 〒164-0001 中野区中野3-36-16

公益信託
あだちまちづくり
トラストHP

